



ハートフルなんぶ

2023. 4月号 vol. 294

長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川 1201 番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

4月の 新刊案内

- 『名探偵の生まれる夜』青柳 碧人／著 KADOKAWA <Fア>
 『植物少女』朝比奈 秋／著 朝日新聞出版 <Fア>
 『一睡の夢』伊東 潤／著 幻冬舎 <Fイ>
 『家康の海』植松 三十里／著 PHP 研究所 <Fウ>
 『継ぐ者』上田 秀人／著 KADOKAWA <Fウ>
 『鎌倉駅徒歩8分、空室あり』越智 月子／著 幻冬舎 <Fオ>
 『江戸一新』門井 慶喜／著 中央公論新社 <Fカ>
 『うさぎ玉ほろほろ』(南星屋シリーズ 3巻) 西條 奈加／著 講談社 <Fサ>
 『風の値段』堂場 瞬一／著 小学館 <Fト>
 『祝祭のハングマン』中山 七里／著 文藝春秋 <Fナ>
 『妖の絆』誉田 哲也／著 文藝春秋 <Fホ>
 『ある愛の寓話』村山 由佳／著 文藝春秋 <Fム>
 『獄門待ち』(隠密船頭 10) 稲葉 稔／著 光文社 <BFイ10>
 『荒ぶるや』(空也十番勝負 9) 佐伯 泰英／著 文藝春秋 <BFサ9>
 『たりる生活』群 ようこ／著 朝日新聞出版 <914.6ム>
 『青いパステル画の男』アントワーヌ・ローラン／著 吉田 洋之／訳 新潮社 <953ロ>
 『家康の本棚』大中 尚一／著 日本能率協会マネジメントセンター <289.1ト>
 『五感で楽しむ間取りの図鑑』建築家住宅の会／著 エクスナレッジ <527コ>
 『世界にひとつだけの洋服と小物』吉田 三世／著 ワニブックス <593ヨ>
 『志麻さんのベストおかず 料理のきほん編』タサン志麻／著 扶桑社 <596タ>
 『ワイン家のオープン料理』ワインあけび／著 リトルモア <596ワ>
 『モノが減ると「運」が増える』やました ひでこ／著 大和書房 <597ヤ>
 『ちひろ美術館の窓から』松本 猛／著 かもがわ出版 <726マ>
 『もしも恐竜と話したら』ペズル／文 プレジデント社 <Y457ハ>



4月のテーマ 「衛生・健康」

- 『世界一やさしい!微生物図鑑』鈴木 智順／監修 新星出版社 <465セ>
 『カビの取扱説明書』浜田 信夫／著 KADOKAWA <465ハ>
 『小学生のための歯のはなし』渡邊 真亀子／著 WAVE 出版 <497ワ>
 『家族と自分を守る「安心な食品」の選び方』安部 司／著 祥伝社 <498ア>
 『健康になれない健康商品』佐藤 健太郎／著 春秋社 <498サ>
 『超・図解身近にあふれる「微生物」が3時間でわかる本』左巻 健男／編著 明日香出版社 <465サ>
 『ドクター朝田の間違いだらけの子どもの歯みがき』朝田 芳信／著 春陽堂書店 <497ア>
 『死ぬまで元気で楽しく食べられる・話せる最強の「お口ケア」』周東 寛／著 コスモ 21 <497シ>
 『40代から食べるなら、どっち!?』渡辺 雄二／著 サンクチュアリ出版 <498ワ>
 『食品偽装を科学で見抜く』リチャード・エバーシェッド／著 日経 BP 社 <588エ>
 『家事代行のプロが教えるかしこいそうじ術』CaSy／著 学研プラス <597カ>
 『プロの凄腕お掃除コツとワザ』ミッシェル・ホームサービス／監修 講談社 <597フ>
 『週末15分そうじ術』鈴木 美帆子／著 SBクリエイティブ <597ス>
 『コロナと潜水服』奥田 英朗／著 光文社 <Fオ>
 『毒警官』佐野 晶／著 小学館 <Fサ>



2023年本屋大賞ノミネート作
(4/12発表予定)

『月の立つ林で』青山 美智子／著 <FA>

『ラブカは静かに弓を持つ』安壇 美緒／著 <FA>

『光のどこにいてね』一穂 ミチ／著 <FI>

『君のクイズ』小川 哲／著 <FO>

『爆弾』呉 勝浩／著 <FC>

『川のほとりに立つ者は』寺地 はるな／著 <FE>

『汝、皇のごとく』凧良 ゆう／著 <FN>

『宙ごはん』町田 そのこ／著 <FM>

『方舟』夕木 春央／著 <FY>

『#真相をお話しします』結城 真一郎／著 <FY>

Essay

「お腹のムシ」

20年も前、一家で東京見物に出かけた際立ち寄った目黒寄生虫館が妙に思い出深い。サナダムシの標本が館内の壁にぐるっと貼り巡らされている光景が第一印象なのだが、現在の案内によると全長8.8mのサナダムシがホルマリン漬けで展示されているとのこと。自分が見たのは模型の類いか、勘違いかも。

そこに行きたがったのは誰か？なぜか？誰も覚えていない。ただ、思い当たるのは、その頃我が子が学校の蟻（ぎょう）虫検査に引っかかったこと。20年ほど前にこの集団検査は無くなったようだが、当時は虫卵が出た子は通知を渡されたから、級友にバレるのが恥でセロファンをお尻に付けないで提出する子もいたらしい。親としても、我が家が不衛生だと言われたような恥ずかしい思いで駆虫薬を飲ませた。

ところが、身の回りが衛生的になり幼少期に寄生虫などに感染する機会が減ったことと花粉症や自己免疫疾患が増えたことが相関するのではないかという仮説が、いまや多く研究され裏付けもされているようだ。大昔から寄生虫は宿主との共存共栄を図るために宿主の免疫機能をコントロールしてきた。その巧妙な仕組みの解明をさらに進めてアレルギーやガンの予防・治療に役立てることが期待される。寄生虫に対して忌み嫌う以外の付き合い方をうまく探していけば、自然界の一員として共生するお互いの利益に結びつくということだろう。そういえば、きょうだい中でアレルギーがほぼ無く育ったのは、お腹にムシがいた子だった。

寄稿：とど



南部図書館
開館カレンダー



2023年4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2023年5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

開館時間：午前10時～午後6時

■は休館日です